

麻生太郎です。

四度目の、挑戦をしようとしています。

わたしの前途には、日本と、日本国民が登るべき、高らかにそびえる峰が見えています。

峰にかかる、雲も見えています。

国家国民の指導者たるもの、常にその、白雲を望み見て、おのれに鞭打って、急な坂を登ってゆくものでなくてはなりません。

しかも、国家国民の指導者たらんとするもの、足元と、はるかな峰とを、共に見る目を、もたんとするものでなくてはなりません。

急な坂にかかってこそ、むしろ心に余裕を、表情にほほえみを絶やさず、これを楽しむことすらできる者でなくてはなりません。

わたしはそのため、四たびの挑戦をいたします。

黨員、党友の皆様のご支持を、圧倒的なるご支持を、冀(こいねが)うものであります。

わたしは、四たびの挑戦のもつ重みを前に、身、引き締まる思いであります。

しかし、わたしは、逃げません。

先人たちから引き継ぐたいまつを、放すことは、ありません。

わたしは、それをこれから、国民に対し、身をもって証明するのであります。

五尺五寸八分。この身をなげうって、駆け抜けようとしております。

総裁に選んでいただきました、そのあかつき、わたしはやがて、我が党の命運を賭ける戦いに臨みます。

我が国に、混乱に替えて、不動の重心をもたらすもの。それは、どの党であるか。

日本の経済に、真の改革を、責任と実効のある改革をもたらし、国民の暮らしの隅々まで、温かい血をめぐらすことのできるもの。それは、果たしてどの党であるか。

日本の安全を、一点の曇りもなく保証し、かけがえのない同盟関係を、揺るぎなく強めていく覚悟のある党は、いったい、どの党であるのか。

日本の、新しい世代、若い世代に、希望と夢とを与え、未来を支える確固たるいしずえを、国家経済、国家社会に与えることのできる力をもった党。言葉 だけではありません。力を持った党は、どの党であるか。

審判を、最終的な審判を、有権者からいただくその戦いに、わたしは臨みます。

これらの問いに対する答えは、おのずから明らかであります。

民主党では、ありません。あり得よう、はずがありません。

我が自由民主党こそが、日本の軸をよりいっそう太く、頑丈に、固めるのであります。

我が自由民主党と、志を同じうする公明党との、信頼と、実績に裏打ちされた連合のみが、その軸を、はるか未来へと、ひたすらにまっすぐ伸ばし、かの高い峰にかかる白雲を目指す

のであります。

わたしは、日本国民からまさしくその審判を、最終審判をいただきんとして、ここに立つものであります。

皆様のご支持 圧倒的なご支持を、いただきたく存じます。

過ぐる 12 年、4000 日になんなんとする期間、わたしは大臣として、内閣の一翼を担い、党にあっては、要(かなめ)の職について、国家経営の任に当たりました。

官主導から、民主導へ。経済の成り立ちを抜本的に変えるべく、規制の撤廃と、改革を実行してきました。経済の再建こそは、わたしが身命を賭した課題です。

外務大臣を務めた際には、日本の外交に、一本の太い筋を通しました。世界中の、どこの誰が見ようと、決して見間違えることのない、明確な路線を敷きました。

4000 日を通じ、経済企画庁長官、あるいは経済財政政策担当大臣として、経済の再建に、総務大臣としては内政全般、なかんずく、規制の改革と地方分権の推進に、そして外務大臣としては外交に。

携わった任務こそ違ったにせよ、わたしはいつもひとつのこと、ただひとつのことを、一心に目掛けて参りました。

それは、何よりもこのわたし自身が、日本と日本人に、一瞬たりとも信頼を失わなかったこととであります。

わたしの信ずるところ、国家国民を率いるリーダーたるもの、まさしくこの点において、いさ

さかの迷い、疑い、留保を、持ってはなりません。

日本を率いる指導者とは、日本と日本人を、深く信じる者でなければなりません。

日本と日本人に、誇りを失わぬ者の、別名でもあります。

だからこそ、わたしは改革を、未来に向けての改革を、続けていこうと、敢然決意するものです。いかねばならぬと、信ずるのです。

日本国を、今よりもっと一層誇るに足る国とし、諸外国からさらなる尊敬と、信頼を勝ち得る国とする。そしてそれを、次の世代に引き継ぐという、ただそのことだけを、わたしは目掛けて参ろうとするのです。

日本は、強い国でなくてはなりません。強い国とは、たじろぐことなく難局に立ち向かい、危機をむしろバネとして、一段の飛躍を遂げる国です。

日本は、明るい国でなくては、日本ではありません。明るい国とは、元気な国であります。元気な国とは、子供からお年寄りまで、国民の一人ひとりが、未来に希望をつなぐことのできる国です。

日本経済。全治3年。こう、わたしは申しました。

三段構えで臨みます。

目先は、景気対策。中期的には、財政再建。そして中長期的には、改革による経済成長の追求です。

まず第一段、ふらつく経済の足取りに、あらゆる手段を講じて支えを与えます。

財政も、効果を計算しつつしたうえ、使います。使わねば、一国の指導者として、無責任のそしりを免れないであります。

ただし、行くあてのない道路は敷かず、つなぐ先のない、橋はかけない。

わたくしは昨年、こう述べて総裁選に臨みました。再び、同じことを繰り返しましょう。

わたしを、財政出動論者である、したがって、「オールド・ケインジアン」と、呼ぶ向きがあります。

呼びたくば、呼べ、であります。

わたしがおよそ一切の興味をもたぬのは、この種のレッテル貼りだからです。

わたしごとき浅学菲才に、自分の名をかぶされたのでは、黄泉(よみ)の大経済学者にとって、迷惑千万に違いありません。

ただし、ジョン・メイナード・ケインズとわたしとは、確かに大きな共通点がある。

ケインズはイギリスを愛し、イギリスの難局に立ち向かい、まさしく身命を賭しました。この一点において、わたしはケインズと、志、覚悟を共にするものです。

第二段、財政の再建です。

財政に規律が必要なこと、経営に、規律が必要なごとくです。

しかし経営においてと同様、国家財政においても、事柄は複眼をもって眺めねば、本質を見

誤るのです。

企業経営において、コスト削減だけでは、会社は立ち直りません。

売り上げの増加を目指し、新商品開発のための研究や、前向きな投資をあわせて実施してこそ、初めて会社は立ち直るのです。私は、それを会社経営者として、実践してきました。

国家の経営において常に心がけるべきは、あくまでも成長を目指さねばならぬという、その一事であります。

成長の中、自ずと増えていく税収によって、負債を返済すべきであるという、この原則です。止まったものとして見るのではなく、動きにおいて見るのです。経済は生き物です。

それゆえわたしは、「財政再建を自己目的とする財政再建」は、いたしません。

日本経済の成長の中で、財政再建を追い求めます。

プライマリーバランスの達成という課題も、同じです。そのこと自体が、目的なのではありません。

日本経済に、成長の条件を整えてやること。そのことこそが、目的なのです。わたしに限って、目的と、そのための手段を、混同することはありません。

第三段 改革による成長の追求です。

ナノテクノロジー、ソーラーパネルなど新技術、新業態が次々と現れ、それが新たな市場をつくって雇用を生み出す、明るい循環を築き上げていくことであります。

中長期的には、このことに、最も意を砕かねばなりません。

生産性を上げていくカギが、ここにあるからです。

必要なことは、ヒト、モノ、カネ、技術の有効なる配分です。

金融を、中小・零細企業に回し、経営者に前向きな投資をさせることです。

創意と、工夫を阻む、規制の類を、徹底して取り払ってやることです。

一に、景気の下支え、二に、成長を促す財政の再建、三に、改革を通じた成長戦略の追求、

これが、王道であります。わたしの、追い求めていこうとする道筋です。

目鼻をつけるのに、必要な期間、それを、三年と申し上げています。

それゆえに言う、「日本経済全治三年」です。

外交と防衛について、わたしはいま、多くを申し述べません。

外務大臣として働いた人たちのうち、わたしほど、外交について多くを述べた者は、かつてただの一人もおりません。

わたしが心を込めて述べ、語った我が国の外交路線は、つとに、一冊の本となっています。

ですから、原則のみを短く述べます。

一。日米同盟を一層堅固なものとし、強化します。

二。北朝鮮に向かっては、内に深い怒りを秘めつつ、国民の憤り、被害者家族の悲しみを、わたし自身、我が物として共有しながら、拉致、核、ミサイルの解決を求め続けていきます。

三。自信を持った外交を進めます。

今日この瞬間、はるかなアフリカで、一千人に達しようかという日本人の若者が、青年海外協力隊として働いております。そのうちの半数以上、六百人近くは、女性です。

胸を張り、明るく働き続けている彼女らの顔が、日本の顔です。善をなさんとして、骨身を惜しまぬ彼ら、彼女らこそは、我が外交の誇りです。

再び申し上げます。

わたしには、用意があります。覚悟ができています。

わたくしを省みない、覚悟です。

日本と、日本国民の、安寧を追い求める、決意です。

わたしには、自信があります。

日本と、日本国民がもつ、歴史に裏打ちされた奥深い叡智。危機を好機に転ずる、不屈の能力に対する、信頼であり、自信です。

今くらい、難局に臨んで負けない指導力を、政治が必要としているときは、ありません。

危機に真正面から向き合う、沈着なる指導力。おのれの退路一切を断って、国民の先頭を走る脚力。信ずるところを堂々と説き、内外の難関を突破する、気迫に満ちた覚悟の力。

麻生太郎、これを振るわんとして、一身に鞭打ってまいります。経験の一切を、つぎ込んで参る所存です。



敬愛する、自由民主党の党员、党友の皆様、わたしへのご支持を、圧倒的なご支持を、ぜひとも賜りますよう。心よりお願いを申し上げ、所信の表明を終わります。